

「消防学校ニュース」

初任教育初任科第88期

第1回野外訓練～浜石岳

特集号

10月31日(火)、午前6時30分、朝日が消防学校訓練塔を照らし始めてきた。初任科第88期の第1回野外訓練実施日。天候は良さそうだ。

10月2日(月)に入校して概ね1か月。

教育訓練序盤の総括を兼ね、必要な脚力、持久力等の体力と強靱な精神力、更には協同精神の涵養を図るため、野外訓練として浜石岳(静岡市清水区(旧由比町)、標高707m、全行程約30km)登山を実施する。

ハイキングコースとはいえ、初任科生は各自、飲料水等の個人装備品のほか、約8kgの消防用ホースを全行程携行する。訓練前夜、初任科生のみでミーティングを実施し、全体のために、班として、個人として何をすべきかを話し合った。第88期生にとって必要なゴールの一つ、「**全員完歩**」を目指す。

…スローガンは“七転び八起き”の精神で

『上を向いて歩こう!』

澤野校長、訓示



7時30分

出発式

永田担当教官、指示



1名体調不良により不参加、総勢38名



4日前に初任科生による選挙で総代に選出された川口 柊 学生(駿東)、決意表明

同行する教官達が見守る中、消防体操・ストレッチ・体力練成



30回という回数を決めて出発前に実施した体力練成。どう向き合うかで効果は異なる。野外訓練もただ歩くだけでなく、向き合い方ひとつ変えることで、多くを学び取れ!

永田教官、校旗(総代)を先頭に

出発!!



午前8時出発、午後5時に全員が自分の足で学校に戻る!(永田教官指示)

もうすぐ山頂

絆



午前 11 時、予定どおりに「浜石岳広場」へ到着！



舗装された道路とはいえ、車も苦勞する急斜面。初任科生たちの気力・体力を削り落としていく…。



3人又は4人一組の班は、寝食を共にする同じ寮室のメンバーで編成。互いに励まし合い、助け合って、新たな「絆」が生まれる。



学校を出て約 30 分後、「薩埵峠駐車場」に到着



平らな路面から斜面へ。前日までの準備がいかに大切か、身をもって知る初任科生たち。



往路では最初の難関、復路では最後の難関、「薩埵峠」標高は100メートル足らず、しかしその勾配は激しい…



薩埵峠越えを終え、「由比駅東公園」へ。ここから、いよいよ浜石岳を目指す！

山頂

坂口副校長以下、今回の訓練に参加した消防学校職員たち(精鋭部隊)。【山頂にて】

初任科生たち全員を学校まで時間通りに連れていく。改めて気持ちを引き締める。



12時、ちょうどお昼に全員無事、山頂到着！
待ちに待ったお弁当の時間。初任科生の表情が和らぐ。束の間の休息。30分後には再び山道と向かい合うのだ。



初任科生たちが自ら互いに気付きを与え、安全管理意識を持ち続けることで、教官たちは淡々と同じペースで山頂まで誘導することができる。



靴擦れを予防するためにテーピング等を施しても、重い荷物、きつい斜面、汗ばんだ編上げ靴で足の皮膚がめくれ上がる。



車両が通れるルートから険しい山道ルートに入って頂上を目指す。ここまで最後尾で追走していた公用車支援部隊とも一旦ここでお別れ。



山頂手前、疲労もピークに差し掛かる頃、周囲・足元の状況を確認しつつ、救助資機材を搬送する。山中での資機材落下は絶対に許されない。集中力が試される。

浜石岳山頂へ向かって出発！

下山!!

学校へ戻ろう



腹ごしらえも完了。
午後0時40分、
野外訓練隊は
復路に入る。



いよいよここからが本番だ！
教官からの注意で正すのではなく、
自分たちで気づき、行動しろ！！



辺りも薄暗さが増してきた
午後5時、
野外訓練隊が学校へ帰ってきた。
予定の時間どおり。
しかも全員しっかりと足取りだ。



校門間近！最後の坂道、足取りは軽くなる…。



グラウンドへ整列



全員完歩。
本日のミッションは
完了した。

坂口副校長
訓示



留守番役の
校長からの差入れ

体力、精神力、
自己の安全管理、
仲間への気遣い、
“今”の自分自身を
よく認識し、
成果と課題を
次に繋げてほしい。

訓練はまだまだ
これからだ。



野外訓練の翌日、初任科生に訓練の厳しさは続くのです…



抜き打ち

防災訓練

逃げる(避難する)ためではない!!
消防士として活動するために“集合”だ!!

野外訓練の翌日、11月1日(水)、午前9時、制服姿で大教室に待機していた初任科第88期生たちに、突然「地震発生」の校内放送。非常時の服装、必要な携行品を準備して、直ちに屋内訓練場へ集合せよ!



早く出てきたのはいいが…
ジャージ姿?

初任科生たちは直ちに寮室へ。着替え、必要品の携行を済ませ、寮から屋内訓練場へ。



しっかりと
服装を整えよ!!



この訓練の目的は、いつ発生するか分からない大規模地震等に備え、日頃からの防災意識、非常持ち出し品の大切さを認識させることはもとより、自分の命は自分で守るとともに仲間との連携を確認すること、いわゆる自助、共助の精神を植え付けることにある。

この訓練を通じて、将来、住民に対して指導する立場になる学生たち自身が、災害が発生した場合の迅速かつ的確な行動、協力し合うことの大切さを考え、今後の訓練に生かしていくことを期待する。



9:35 ようやく全員集合

……遅い!!
要救助者を待たせるのかぁ!?

《留意点》

- ① 安全に災害救助活動が実施できる服装か
- ② 防寒対策はできているか
- ③ 着替えは持参しているか
- ④ 7日分の非常用食料を持参しているか(栄養や量なども考慮しているか)
- ⑤ 7日分の水分(30×7日=210以上)を持参しているか
- ⑥ ラジオ、懐中電灯を持参しているか(電源確認、点灯確認)
- ⑦ 自分のことだけを考えていないか



服装・携行品の点検

